平成23年3月発行

月の館 通信

信濃観月文庫

麻績村
発行／信濃観月苑
長野県東筑摩郡麻績村麻 8059-2
TEL・FAX (0263)67-3933

第20号

はなにせいこうあり
花有清香

つきにかげあり
月有陰

月の館通信　二十号によせて

麻績は月の似合うところ

徳嵩 よし江

ひと昔、ふた昔、み昔・・・・振り返れば30年を超えて、野良着や夜具、布団などのもめん、よそゆきや礼装の絹布など、人々が纏って暮らした布とその周りの生活文化、想い、願い、祈り、ことばをほんの僅かでも伝え残したいとひたすらに思いつつ時をすごしました。

そのもめんがぼろぼろであればあるほど愛おしく、その絹が上等であればあるほど誇りに思い、伝えられている知恵と工夫にひれ伏す思いの日々でもありました。

これらの布の向こうには祖であり先達の暮らしぶりはもちろん、精緻な技への気概が溢れていました。

包む

素材　藍もめん　ザーツァイカメ
麻績観月苑展のもの

祈りの樹

タテ 75 センチ ヨコ 93 センチ

命堆（つ）む　大地に深く　根を伸ばし
日々の祈りの　花を咲かせん

より素直により美しく、無から有を生む、不足から足るを生む知恵と工夫と努力と、何よりも家族のみならず生きとし生けるものへの愛情の深さが染み付いています。

生活の全てが、いま全世界で声だかに叫ばれている、リサイクル、リユース、リメイクの考え方を同じくする、「繰り回し」をしながら、正直に慎み深くいとなまれていたことが伺えます。

布に埋もれ、針の穴から社会を覗いてきて、いよいよ「不易　流行」という言葉の重みと教えの深さを痛感しています。

流行の波に沈んで行くことごと、不変に伝えていくべきものの違い。

不易とは、有史以前からの日本の美意識の表現として伝えられている、いわばDNAともいえる、「清きこと」「直ぐなること」「明るきこと」「伝えること」。それは詰まり、心であり情の表現の確かさでもあるように思います。

振り返れば、これらこそ、時代の荒波にもまれるうちに忘れそうになっていることごとのように思います。

麻績の山里は、月の似合うところ。

それはそのまま古からの日本の美意識に叶うところでもあります。

今こそ、「照顧脚下」、足元にある宝物に気づき、「温故知新」、先人の美意識を思い出し、日本人の日本人たる美意識を思い出し、更なる十年二十年の後に伝えつづける努力こそ、それらを享受してきた私たちから、天への返礼ではないかとを思っています。

設え

素材　竹かごの縁型の花入れ

祝い酒のための仕覆

素材　絹

花嫁衣裳の白無垢と色直し

徳嵩（とくたけ）よし江（え）略歴

古い藍木綿を中心に、和布を素材にした創作活動を続け、生活文化としての布の保存、伝承活動、中学生高校生に針仕事を伝える活動に取り組む。国内外での個展多数。

著書「ひとときの風のなかで」

「信州の布これまでとこれからと」

「木と布・工房のどか」主宰。

など。

麻績を訪れた正岡子規

小林　貴子

若き日の正岡子規は麻績の地を踏んでいる。その紀行を紹介しよう。

子規は一八六七年、大政奉還の年に生れた。翌年が明治元年なので、子規の満年齢は明治の年次と同じに刻まれてゆく。

子規は明治十六年に上京し、翌年は大学予備門（一高）に合格。二十一年に初めて喀血するが、養生しつつ、二十三年に帝国大学哲学科に進学が叶う（のち国文科に転ず）。しかし翌年の六月には学年試験を放棄し、信州へと旅行に出る。二十四歳の時だ。三十五年の短い生涯に、俳句を分類し、俳句・短歌の革新を推進し、多くの実作を残し、文芸における写生を初めて説き、批評・随筆・闘病記を残し……と、今も仰ぎ見るべき業績を上げた子規だが、この時はまだ青春の真っ只中。俳句の実作も緒に就いたところである。

この時の旅行記は「かけはしの記」と題して、翌年、新聞「日本」に発表された。

旅は六月二十五日から七月四日にかけて、汽車で横川まで来て馬車で碓氷峠を越え、軽井沢へ。再び汽車で長野へ出て善光寺に参詣。川中島を過ぎて篠ノ井まで戻る。

そこから木曽に入るまで、往時の北国西街道を徒歩ならびに馬などで進む。この街道の宿駅は北から順に丹波島、篠ノ井、稲荷山、桑原、麻績、青柳、会田、刈谷原、岡田、松本、村井、郷原、洗馬と続く。現在の篠ノ井線の駅名と重なるものもあり、長野～塩尻間に暮す我々には親しい地名ばかりである。

「かけはしの記」を読んでみよう。《　》内は原文、「　」内には概ねの訳を記す。

稲荷山で雨に降られて詠んだ短歌は《日はくれぬ雨はふりきぬ旅衣袂かたしきいつくにか寐ん》という。「日が暮れ、雨が降ってきた。旅人である私は旅衣の袂の片側を敷いて、どこに眠ればよいであろうか」と旅の心許なさを詠っている。伝統の手法である。

次の日は雨が上がった。《路〳〵立てたる芭蕉塚に興を催ほして辿り行けば行くてはるかに山重なれり。》これは姨捨長楽寺の芭蕉句碑〈おもかげや姨ひとりなく月の友〉を指すものであろう。

《野の狭うとがりて次第〳〵にはいる山路けはしく弱足にのぼる馬場嶺、さても苦しやと休む足もとに誰がうゑしか珊瑚なす覆盆子（いちご）、旅人も取らねばやこぼるゝばかりなり。》「野は狭く、尖って、次第次第に山道に入れば路はいよいよ険しくなり、弱い我が足で猿ケ馬場峠を登る。さても苦しいものよと思って休み、ふと足元を見ると、誰が植えたのか、苺が真赤な実をつけ、旅人も摘まないからであろうか、こぼれるばかりである。」こうして猿ケ馬場峠を越え、麻績に入ろうとする。

《少し上りてとある樹陰の葭簀（よしず）茶屋に憩（いこ）へば主婦のもてなしぶり谷水を四五町のふもとに汲み

てもてくる汗のしたゝり、情を汲む一口に浮世の腸（はらわた）は洗はれたり。》「少し上り、ふと、ある木陰の葭簀張りの茶屋で休憩を取る。その店の主婦のもてなしぶりはというと、四～五町離れた麓の谷へ水を汲みに行き、水を持って戻ったところを見れば汗がしたたっている。この女性の情けを汲むに他ならない水を一口含むと、我が浮世のはらわたはすがすがしく洗い清められる心地がする。」麻績近在の女性は昔も今も、労を厭わず、他者をもてなす心の豊かな働き者であることが印象に残る文言である。

《一樹の陰一河の流れとや。ひじりの教も時にあふてこそありがたけれ。》「一樹の陰一河の流れも他生の縁、という仏教の言葉があり、この世で起る出来事はすべて前世の因縁に基づくものだと聖人は教えているが、教えというのはこの度のように、時宜を得てこそ感得されるものである。」と、他生の縁に感謝の念を表明している。「ひじり」の語を出したのは、地名に由来する掛詞であろうか。

《行くてを仰ぎては苦しみ越方を見下ろしては慰む。目じるしの大木やう〳〵近づけばこゝにも一軒の茶屋。山の嶺をしめて池に臨めり。遠近の眺望一目にあつまりて苦あればこその面白さ。迚（とて）もの事山に栖（す）みたし。》「行く手を仰いで苦しみを感じ、越えてきた道を見下ろして、これだけ来たかと自分を慰める。目印の大木がやっと近づくと、ここにまた一軒の茶屋がある。頂きに位置して池に臨んでいる。遠近の眺望が利き、苦あればこそ、この景色を楽しむことも出来る。いっそこの山中に住んでみたいものだ。」この山中が気に入り、住みたいという気持まで遂に芽生えたようだ。ここで和歌を一首。

《またきより秋風そ吹く山深み尋ねわびてや夏もこなくに》「朝まだきからすでに秋風が吹きわたる。それというのも、こんなに山が深いからだ。尋ねて来ることが出来ないものかと見えて、夏もやって来はしない。」この歌は新古今調といえようか。理づめなようでいて、低地とは異なる高原地帯ならではの気候の特色がよく捉えられている。聖高原、聖湖あたりの印象をまとめたものか。

この場面に続く描写は、すでに坂北を過ぎ、本城の乱橋へと進んでいる。

《此夜は乱橋といふあやしの小村に足をとゞむ。あとより来りし四五人づれの旅客かにかくと談判の末一人十銭のはたごに定めて隣の間にぞ入りける。晩餐を喰ふに塩辛き昆布の平など口にたまりて咽喉へは通らずまして隣室のもてなし如何ならんと思ひやるに、たゞうまし〳〵といふ声のみかしかましく聞ゆ。》

「かけはしの記」は、伝統の紀行文の手法を踏まえている。思いがけぬ邂逅に感動したかと思うと、また、ままならぬ事態に遭遇して不快な思いにさいなまれる。それが旅の特色に他ならない。芭蕉の『おくのほそ道』と同様である。伝統の技法を取り入れていると同時に、自ずと子規の本音が滲んでいる。

その後松本、塩尻から木曽谷に入った子規は、寝覚ノ床や桟など木曽の名所を堪能し、美濃を経て犬山へ出て、汽車で帰途につく。

今回改めて「かけはしの記」を繙き、北国西街道の描写に親しみを感じることが出来た。

小林貴子略歴

一九八一年信州大学学生俳句会、岳俳句会に入会。宮坂静生先生に師事。二〇〇三年現代俳句協会賞受賞。現在「岳」編集長。

句集「海市」「北斗七星」「紅娘（てんとむし）」

著書「秀句三五〇選　芸」「もっと知りたい日本の季語」

催し物案内

遠山望　5月29日日
サクソフォンコンサート

月の館大寄せの間
サクソフォン／遠山 望
ピアノ／山川 拓也

第12回曼陀羅の里お月見俳句大会

10月8日土

13:00 ～ 16:00
当日句　２句（自由題）
会費／1,500円
（投句料・聴講料・懇親会費）
選者／「梟」主宰・矢島渚男
「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子
「黒姫」主宰・神田北童
「岳」編集長・小林貴子

第18回紅葉がりの茶会

10月23日日

受付／10:00（受付終了 14:00）
定員／150名　会費／2,500円
薄茶席　耕月軒
薄茶席　観月堂（立札）
点心席　月の館大寄せの間

第19回月の里俳句作品募集

募集締切　8月31日水

大人　３句一組（何組でも可）　投句料／1,000円
小学３年生～中学生　２句まで　投句料／無料
選者／「梟」主宰・矢島渚男
「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子
「黒姫」主宰・神田北童
「岳」編集長・小林貴子

茶室清香亭月釜

松林のなかの茶室にて季節のお点前をお楽しみください。
時間　10:00 ～ 15:30　終了時間は変ることがあります。
会費／600円
点心＆お抹茶 2,500円（要予約。３名様以上）

4月29日金	武者小路千家	亀の香り茶稽古の会（松本市）
5月15日日	裏千家	島津宗純社中（長野市）
5月29日日	裏千家	山中宗艶社中（長野市）
6月19日日	表千家	金井宗美社中矢口進子（筑北村）
6月26日日	裏千家	公民館茶道クラブ（麻績村）
7月17日日	石州流	芳香庵松悠（筑北村）
8月21日日	裏千家	信濃観月苑（麻績村）
9月18日日	裏千家	小山宗道社中（長野市）
11月13日日	武者小路千家	亀の香り茶稽古の会（松本市）

観月苑文化講座

参加者募集中

和の小物作り講習会

【3回】
10：00～15：00
■フジ絹の小袋作り
■簡単な和裁
（半襟の付け方など）
■子供のはっぴ
（1～3歳）作り
定員／各10名
会費／1、000円～4、000円
（材料費とも）
講師／徳嵩よし江

山口勝人写仏教室

【第1土曜日】
14：00～16：00
会費／前期・後期とも
各5、000円
講師／安養寺住職山口勝人

御詠歌教室

【第1水曜日】
13：30～15：30
会費／前期・後期とも
各5、000円
講師／法善寺大屋明子

ギャラリー展

町田京子童謡キルト展	4月16日土～4月29日金 出展／町田京子
「四季善光寺」善光寺写真展と粘土工芸展	4月30日土～5月16日月 出展／上野滋数・宮沢恵理
春の山野草展 （待合）	4月16日土～4月30日土 出展／松沢孝次・塚原ふじ子
切り絵展	5月19日木～5月30日月 出展／小林勝枝ほか
絵の里づくり絵画展・アトリエどんぐり作品展	6月13日月～7月2日土 出展／窪田昭人・久保田優子ほか
塙幸次郎作陶展 （月の館二階大寄せの間）	6月18日土～6月30日木 出展／塙幸次郎
「猫」池田宗弘作品展	7月6日水～8月12日金 出展／池田宗弘
和の輪のなごみ展 ―祈りの街道沿い・母たちの作品展―	8月15日月～8月24日水 出展／徳嵩よし江ほか
窪田孟恒あんず染織展	8月27日土～9月4日日 出展／窪田孟恒
市川史草木織展	9月5日月～10月13日木 出展／市川史
石田克成籐工芸展	10月15日土～10月31日月 出展／石田克成
秋の山野草展 （待合）	10月8日土～10月16日日 出展／松沢孝次・塚原ふじ子
工房山窩　木工作品展	11月2日水～11月30日水 出展／並木諭

法善寺所有の軸、巻物、短冊などの常設展もお楽しみください。
冬季間は常設展となりますが、企画展を行うこともあります。（月の里俳句小中学生入選作品短冊展示など）

松尾芭蕉を読む

【第3土曜日】
10：00～11：30
会費／月1、000円
（前期・後期とも各6、000円）
講師／「岳」同人窪田英治

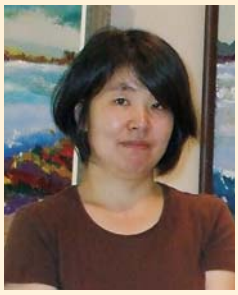
やさしい着付教室

【第2・第4土曜日】
10：00～12：00
会費／月2、600円
（12回シリーズ）
講師／前結び美装流助教授
浅野和子

やさしいマクラメ教室

【夏休み2回シリーズ】
会費／2回
1、000円～3、000円
（材料費とも）
講師／臼井眞智子
大寄せの間にて講師及び教室の方々のマクラメ作品展示も行います。

理想と現実の間で



久保田 優子

こどものための造形サークル「アトリエどんぐり」が発足して足かけ七年がたちました。当時保育園の年長組だった長女も、この春小学校といっしょに「どんぐり」を卒業することになりました。思えば「どんぐり」を始めるきっかけになったのはこの娘が四歳位のときのできごとからでした。

その日娘は、とても不機嫌でした。「絵、描いてみようよ。」私の言葉にしぶしぶ描いたのは、とても乱暴で荒っぽい絵でした。それを見て「あること」を思い出した私は、さぐるような目をして絵をさし出す娘に、「おお！すごい！大はくりょくだね。もう一枚描いてみる？」と言ってみました。素直にうなずいた娘が、次に描いたのは打って変わって、とても夢にあふれたおだやかな絵でした。（ああ、こういうことなのか）と腑に落ちた思いがしたものです。その時思い出した「あ

ること」とは、それからさらに十数年前にさかのぼった頃のことです。

当時、二十代の初めだった私は、通信教育で「絵画による情操教育」を学んでいました。いわく、幼児にも様々な欲求不満や破壊行動があり、それは、自由に絵を描くことや、工作をすることにより解消することができる、というものでした。一年間のテキスト学習とスクーリング、幼稚園での実習をへて修了することができたのですが、若かった私にとっては机上のことにすぎず、十数年たってやっと実感することができたのです。

こんな風に心が満足するような創作する場ができたら、自分の手で何かを生み出すことに喜びを感じるようになってくれれば、そんな思いから発足したのが「アトリエどんぐり」です。「どんぐり」では出来ばえは二の次。作業する時間がどれだけ充実したものになるかが重要。なるべく良い所を見つけ、肯定的に、を心がけているのですが・・・。なかなか思い通りにいかないのが現実。半日がかりで準備した工作を五分で飽きられたらこちらの方がストレスがたまります。外遊びの魅力に負け、一人部屋にとり残されたこともしばしば、（もっと毅然としなきゃ・・・）つまらないことでキレて怒るなんてしょっちゅう・・・。（子供たちよ大人も完璧でないことを学んで下さい。）出来ばえは二の次といっても、学年が上がってくれば、そうも言っていられない。一人一人、感性も能力もちがう子供たちに、どんな言葉をかければいいのか、迷ったり悩んだりの七年でした。でもどうにかやってこられたのは、お迎えや工作材料の提供など常に協力的な保護者の皆さんと、何よりも「楽しい！」と通って来てくれる子供たちのおかげなのです。

この春、新たに第八期が

スタートします。今年も楽しく工作ができますように。そして、今まで「どんぐり」に来てくれた四十人余りの子供たちが、物を作ることをいとわない人になってくれますように、それが私の一番の願いです。

11/2 ▶ 11/30
工房山窩（こうぼうさんか） 木工作品展

並木（なみき） 諭（さとる）

東筑摩郡筑北村に手作り家具の木工房を開き、木の良さ、手作りの良さを生かした家具を中心に製作。他にそれぞれの木を使いきっての食器、鏡なども好評。全国のクラフトフェアに出展。

10/15 ▶ 10/31
石田（いしだ） 克成（かつしげ） 籐工芸展

糸巻きを使った電気スタンド

行灯

石田（いしだ） 克成（かつしげ）

1984年、籐の編み込み、曲げ加工の技術に魅せられて、高沢久道師に師事。1987年独立。以後独自の技術を磨き、籐家具を製作。また、竹、蔓、木などの天然素材を使った作品作りに取り組む。教室（石田ラタンスクール）等での技術指導、生涯学習教育にも携わる。

県内外のギャラリー等で個展開催。

第十八回 月の里俳句入選作品

一般の部

矢島渚男選

特選

明けの空さしばの群の渡り初む　百瀬　裕子（松本市）

野沢菜も小松菜もみな菜の花に　脇田　警（木曽町）

秀逸

きらめくは崩るる兆秋のばら　古町　栄子（松本市）

淀む水ぴくりと動く蝌蚪の紐　下田　幼和（松本市）

冠着山を離れる月に見惚れけり　滝澤　清（筑北村）

佐藤文子選

特選

ゴッホ展出て炎天にゆがむ街　稲沢　礼子（上松町）

風振りて葵の花の果てて行く　中原　悦美（松本市）

秀逸

落日の色を飲み込む夏の海　種山せい子（松本市）

帰省子のまことに軽き鞄かな　西澤　吉昭（安曇野市）

雨降らすことも忘れて雷去りぬ　田中　竹子（須坂市）

神田北童選

特選

きらめくは崩るる兆秋のばら　古町　栄子（松本市）

ゴッホ展出て炎天にゆがむ街　稲沢　礼子（上松町）

秀逸

蜥蜴出て奉納相撲行事待った　脇田　警（木曽町）

無花果に羞ふ色のありにけり　田澤　博（木曽町）

冠着山を離れる月に見惚れけり　滝澤　清（筑北村）

小林貴子選

特選

ゴッホ展出て炎天にゆがむ街　稲沢　礼子（上松町）

盆三日在すがごとく仕へけり　樋口千冨代（松本市）

秀逸

淀む水ぴくりと動く蝌蚪の紐　下田　幼和（松本市）

空蟬の生れし我が身を見つめおり　土橋　俶子（麻績村）

巣を壊し卵大事と運ぶ蟻　宮坂　森雄（筑北村）

耕月軒の降りつくばい

旬の味 お点前による

点心・お抹茶をお楽しみください

お抹茶
1服 600円

いつでもお点前でお楽しみいただけます。

点心
2000円（一例）

一、椀　物　松茸、紅葉麩、三つ葉、鱧
一、焼　物　鮎、きゃら蕗、茗荷甘酢漬け
一、壷　地物と菜花の大根おろし和え
一、煮　物　大根、鰤、青物、針生姜
一、水菓子　南瓜よせ、林檎のワイン煮、苺
一、香の物　ベッタラ大根漬、奈良漬け
一、ご　飯　栗入り赤飯

7日前までに、3名様以上でご予約ください。（季節により内容が異なる場合があります）

信濃観月苑をご利用ください

広く文化活動や研修会、お茶会等にどうぞ

お問い合わせ・ご予約 TEL/FAX 0263-67-3933

小間の茶室「清香亭」

■利用料金／1会 10,000 円

ギャラリー

展示発表の場としてご利用ください。

■利用料金／半日 5,000 円・1日 10,000 円

広間の茶室「耕月軒」

■利用料金／半日 5,000 円・1日 10,000 円

音楽ホール

コンサート、発表会などにご利用ください。
グランドピアノ KAWAI GM-10

■利用料金／半日 5,000 円・1日 10,000 円

大寄せの間（2F 40 畳和室）ステージ付

お茶会、お稽古、句会、研修会、コンサート会場などにご利用ください。

■利用料金／半日 3,000 円・1日 6,000 円

観月堂

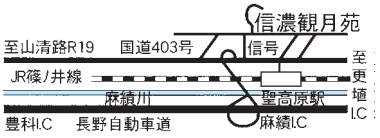
お茶会、句会、月見の宴、神前結婚式などにご利用ください。

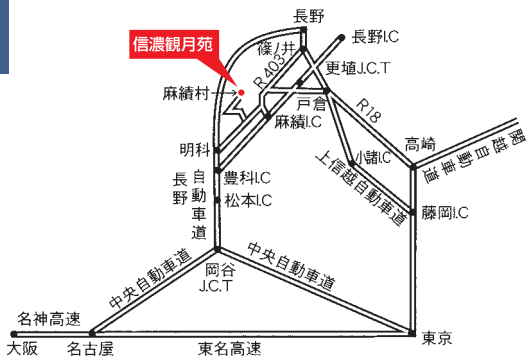
■利用料金／半日 5,000 円・1日 10,000 円

信濃観月苑

長野県東筑摩郡麻績村〒399-7701
TEL/FAX（0263）67-3933

開苑時間	午前 9 時～午後 5 時
休苑日	毎週火曜日
入場料	個人　高校生以上 300 円
	小人　150 円
	団体　20 名以上 2 割引





麻績村のホームページ
http://www.vill.omi.nagano.jp

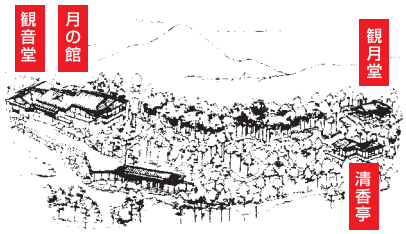


表 紙

あんず染織作家窪田孟恒氏の表紙は隈なく照る月にフルートを吹く花のような少女。若林里佳さんのコンサートを今年も予定しております。